

一級危機管理士 勉強会レポート

2024年4月6日（土）

一級危機管理士取得者4名の方に、Zoomを使用したオンラインによる研究発表をしていただき、うち1名は、現地から報告いただきました。

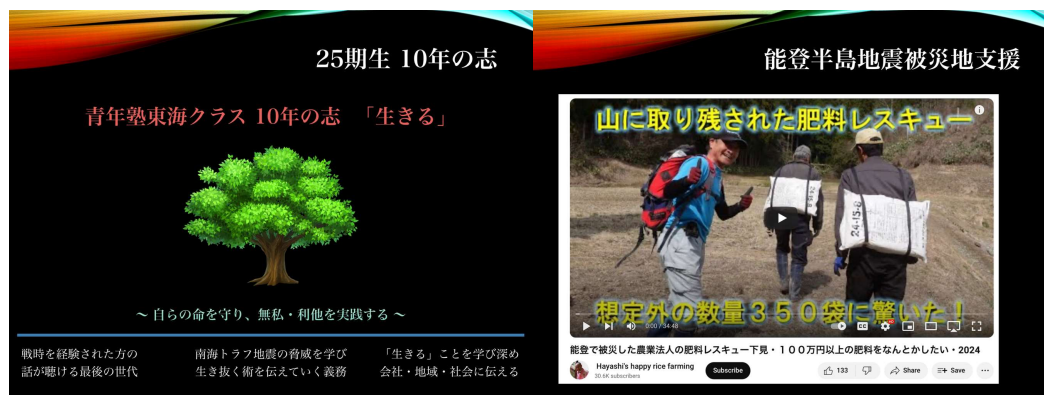
■能登半島地震への取り組み ～ 有志の取り組み ～

小牧 学様

自身の様々な経験を磨くために「志ネットワーク青年塾」の東海クラスに参加し「生きる」ことをテーマに活動してきた。塾生それぞれの経験・知識・知恵を活かして、福井県越前市で災害時の体験・対処実践を行った後、防災知識を共有していたところ、令和6年能登半島地震が発生したため、有志としての動き方を検討した。まずは富山の青年塾OBを通じて現地ニーズを把握し、活動を始めた。それから3ヶ月が過ぎ、農業を営む塾生から肥料運搬でぎずにいるとの話を聞き、4月20日に現地で運搬支援をする予定になっている。今後とも有志として、何が求められ、どのような活動をしていけばよいかを考えながら活動していったとのご報告がありました。

青年塾東海クラス 10年の志

農業法人の肥料レスキューの下見



■令和6年能登半島地震 珠洲市支援状況報告

大塚 和典様

2024年1月1日16時10分、能登半島地震発生直後に熊本市役所で情報収集体制を構築し、4日には珠洲市に到着。今までの災害との違いは、半島という問題で道路が寸断され、移動に時間がかかり支援効率が悪いなどの特徴があった。また、熊本地震の経験と同様、市が混乱し災害対応ができないなど、今までの災害と同じ繰り返しであった。そのため、珠洲市の業務改善として、職員の安否確認、今後予想される災害業務の作成などを進めた。さらに、宿泊場所探し、キャンピングカーの手配も行った。キャンピングカー支援では、車輛集めに時間を要し、事前の組織体制構築が課題となった。支援の際には、職員も被災者のため

被災地職員への思いやりが大切だという指摘がありました。

今までの災害との違い

珠洲市での改善業務

<p>■今までの災害との違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震でも車で1～2時間移動すれば、電気、水、トイレ、コンビニ、宿泊施設があった。 能登半島地震は地理的にも半島という問題で道路が寸断され、ライフラインが整っている金沢市へ8時間～10時間という時間がかかった、現在でも3～4時間はかかる状況である。 ・業務のほとんどが移動時間にかかり効率が悪い ・宿泊施設がないために会議室や廊下に雑魚寝 ・ライフラインが全滅のため生活ができない ・最初の1週間はカップ麺とアルファ化米 	<p>■珠洲市での改善業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ●珠洲市へキャンピングカー導入の提案 ・6日珠洲市に入り 市長、副市長、総務省の方へキャンピングカーを見せ対口支援職員の宿泊場所にしてはどうかと提案、即決で導入を決定 会長に30台準備を依頼、1月11日に19台納車、1月30日に11台納車、合計30台で運用。1月18日に輪島市へも20台納車。 ●今回の反省 日本RV協会も初めて大規模なキャンピングカー支援を行う試みであったため、全国の協会員への周知から行う事になり車輛を集めるのに時間を要した。事前の組織体制構築が課題となった。
--	--

■誰のための被災地支援か 令和6年能登半島地震・被災地支援を振り返る

後藤 武志様

今回の地震では、道路と水道の損傷が致命的な影響を与えたことに尽きる。輪島市へ被災地支援に入ったのは、「ネットワークおぢや」からの要請により飯田市として先遣隊派遣を決定したため、1月17日、輪島市にキャンピングカーで到着した。現地では、り災証明書発行窓口業務の準備、AIを使った建物調査提案の被災自治体への繋ぎなどをさせていただき、飯田市としては、損壊建物の判定資料を作成して輪島市に納めた。言いたいことは、総括支援チームが災害対応を仕切ることになるが、災害が落ち着いてくると、仕切りに問題が起きてくる。このような経験から、「総括支援チーム」の「調整支援チーム」への名称変更など、支援者の満足や手柄よりも、被災者が納得できる支援をすべきとの提案がなされました。

被災地支援に入った経緯

考えさせられたこと、学んだこと、そして提案

<p>輪島市へ被災地支援に入った経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中越大地震ネットワークおぢや（中越大地震の支援をきっかけに全国90自治体で構成する任意組織）に輪島市、飯田市も加盟。前回の能登半島地震の際にもネットワークおぢやが被害家屋調査に協力 ●ネットワークおぢや先遣隊（小平台市陣3名）が輪島市を訪問 ●緊急対策職員派遣制度に基づく総括支援チーム員（A乗隊員）から、道整を求められる。 ●総括支援チームのメンバー（支援員）から、後援に輪島市へ支援に来られないか打診の電話が入る。 ●ネットワークおぢやの先遣隊として行くことは可能。輪島市から小平台市へ要請をしてほしい旨を伝える。 <p>ネットワークおぢやからの要請を受け、飯田市として先遣隊派遣を決定</p> <p>常葉大学田中聡教授も同行して、市が借りたキャンピングカーにて名で現地入り</p> <p>1/17 輪島市に到着</p> <p>偶然出会った 飯本市の大塚さん！ 飯本市の支援に「おぢや」も参加です！！</p>	<p>考えさせられたこと、学んだこと、そして提案</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 応急対策職員派遣制度「総括支援チーム」を「調整支援チーム」に変更へ。 ② 支援の主体を「多様」にし、かつ「同等」を基盤に構築するべき。 ③ 適正な判断、健康的な業務が行えるよう、災害時の労働条件を法制化へ。 ④ 対応スピード向上と物量ばかりを求める価値観から、クオリティを高めるための仕組みへ。 ⑤ 社会全体が災害対応を「減点法」で評価する現状から「加点式」の報道と評価へ ⑥ 今、何を優先させるべきかを明確化して、調整と貫通を。 ⑦ 災害対応の重点となる能力は「コミュニケーション力」。人の話を「聞く・聴く・訊く」力をつけて、「話とじどころを見いだしせる力」が肝要 <p>支援者の満足や手柄よりも、被災者が納得できる支援を！</p>
---	--

■輪島朝市被災地からの現地レポート

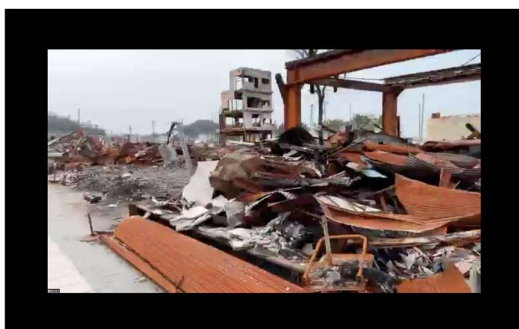
七尾市テント村宿泊による七尾市ボランティア活動報告

納田 里織様

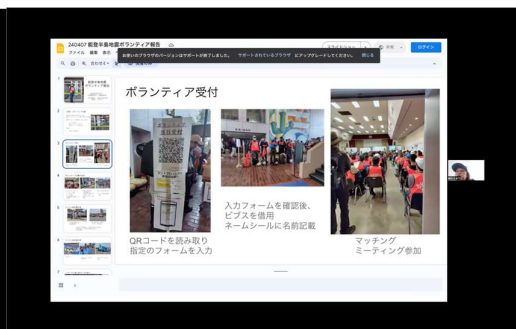
被災地の現状を報告するため、被災地から LIVE 参加されました。前半は、輪島市のビル倒壊現場から輪島朝一周辺の火災発生現場まで、歩きながら建物倒壊の現状やインフラの被災状況、火災発生現場の状況を細かく説明されました。

後半は、4月4日から5日にかけての七尾市でのボランティア活動を報告されました。報告では、QRコードでボランティア受付を行なった後、ビブスを借用しマッチングミーティングを行うDXを活用した運用体制を説明、自らはニーズに応じたチーム編成により、災害廃棄物運搬チームに参加し、事前調査班が災害ごみを選定・分別した後、軽トラに積み込み仮置き場へ搬入を行ったことが報告されました。被災者宅に直接お邪魔するため、地震当時の様子や現在の生活状況なども直接お話しを伺うことも出来たとのことでした。また、七尾市市民球場に、岡山県総社市を中心に、東大阪市、鎌倉市など7市の協力によって七尾市テント村が設置されたことを報告されました。

輪島被災地の現地映像



七尾市ボランティア活動の様子



コロナの感染収束に至らず、今年も Zoom での開催となりました。

この3年で Zoom が身近なものとなり、多くの1級会員の方にご参加いただきました。

皆様のご協力、誠にありがとうございました。